

コア企業：(株)ドーケン（千歳市：警備業）

連携企業等：第一建設(株)、千歳ブロック工業企業組合

事業計画の概要：ホタテの貝殻を素材としたウニの保育礁の開発・販売

～高品質のウニを大量に採取！ 藻場造成にも寄与！～

1. 近年、海洋環境の変化等もあり、海藻の生育が悪くなる藻場（浅瀬の海藻が生えている岩礁）が増えている。この影響で海藻をエサにしているウニの生育も悪くなってきている。
2. また、北海道地域はホタテ貝の養殖が日本一であるが、この貝殻は廃棄物として処理されており、道内の水産系廃棄物の約4割を占めている。しかし、ホタテの貝殻はミネラル分が豊富に含まれている天然素材であり、年々この貝殻の有効活用の取り組みが増えている。
3. そこで、本連携体ではホタテの貝殻を細かく砕いた主原料にセメントを混ぜて、特殊な固化材で固めた資材を開発。この資材を成形して高級食材であるウニの保育礁を開発した（特許申請中）。
4. この製品の特長は、保育礁の壁面にホタテの貝殻の素材が不規則に折り重なっており、表面がギザギザの形状となっていることから海藻の胞子が付着し易く、大量の海藻を生育させることが可能である。したがって、ウニは豊富な海藻（エサ）を摂ることができるため、高品質のウニを大量に獲ることができる。また、ホタテ貝殻の素材が幾重にも施工されているため、一定年数が過ぎてホタテ貝殻の素材が自然に剥がれても新たにフレッシュな基質が現れ、またそこに海藻が育つので、有効年数が長い。
5. 本事業では、本製品の更なる高度化を図るために、海域ごとの自然条件に対応可能な保育礁を開発するとともに、全国の漁業組合へのマーケティングも強化する。また、ウニを藻場から隔離して保育するため、天然コンブをウニの食害から守り、ウニとコンブの棲み分けを図る。これにより、ウニとコンブの両方を収穫できるため、漁業組合のニーズは大きい。

ホタテの貝殻を素材としたウニの保育礁の外観



大量の海藻が付着したウニの保育礁



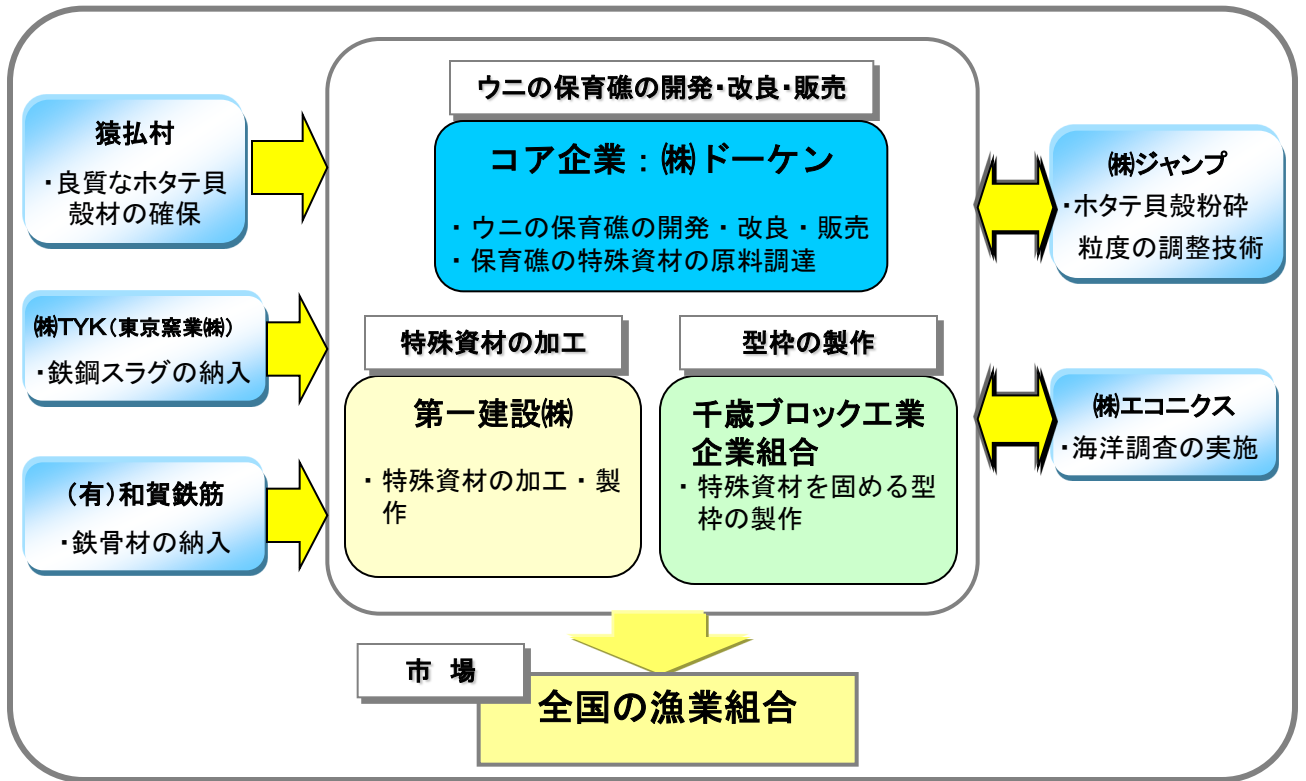
【保育礁の内側の表面】

ホタテの貝殻が不規則に折り重なりギザギザの形状。



ウニが壁面に付着

連携モデル



連携効果

- ・コア企業の特殊素材の開発能力と連携企業の製品製作・施工能力が効果的に融合
- ・連携体のビジネスに賛同した多くの協力企業等が存在。

新事業

- ・ホタテの貝殻を特殊な加工技術により成形し、海藻が大量に付きやすい保育礁を開発。

市場性

- ・市場ターゲットは、まずは北海道内の漁業組合。将来は全国の漁業組合へのマーケティングを強化する。
- ・一部漁業組合と連携し、実証実験を実施中。

支援メニュー

【支援金融機関】 商工組合中央金庫

- 【希望する支援メニュー】 ①政府系金融機関の低利融資 ②信用保証の特例 ③補助金
④設備投資減税

コア企業の会社概要

企業名・代表者	株式会社ドーケン 代表取締役 山端 廣幸	
所在地	千歳市泉沢1007番地261	
創立	平成5年6月	
資本金・従業員数	1,500万円	17名
TEL/FAX	0123-26-7288	0123-26-8370
e-mail	yamahata@angel.ocn.ne.jp	
URL	http://do-ken.jp/htm/index-home.html	